

エコタウンえどがわ推進本部 第19回本部会議 要旨

日時：令和5年3月27日（月）午前10時30分

場所：文化センター会議室

1 開 会

2 新本部員紹介及び資料確認

3 事務局説明

(1) みんなで「いまの^{いのち}生命」と「みらいの地球」を守る計画

(江戸川区気候変動適応計画)の策定について

(2) 来年度の新たな取組について

4 意見交換

5 閉 会

◇資 料

資料1 エコタウンえどがわ推進本部員名簿

資料2 みんなで「いまの^{いのち}生命」と「みらいの地球」を守る計画(概要版)

資料3 来年度の新たな取組について

1 開会

【区 長（エコタウンえどがわ推進本部長）】

- ・ 第 19 回目のエコタウンえどがわ推進本部会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。
- ・ この文化センターの前、桜が今満開だが、自身の幼少期、桜が満開なのは小学校の入学式の頃だったかと思う。今は卒業式の頃に満開になるが、これも地球温暖化のせいではないかとの話がある。
- ・ 地球温暖化であれば、大雨や大きい台風といったものが水害のリスクがある江戸川区にとっては、重大なことである。温暖化の原因が、CO₂の排出であるならば、何とか江戸川区も減らしていきたい。
- ・ 国では、CO₂排出量と吸収量を±0にする2050年カーボンニュートラルを目指しているが、江戸川区は先般、吸収量を多くするより一歩進んだカーボン・マイナスを目指すことを宣言した。本日そうした説明をするので、忌憚のないご意見を賜りたい。

【エコタウンえどがわ推進本部顧問】

- ・ 気候変動に関する政府間パネル第6次評価報告書が最近、公表された。益々厳しくなっており、予定より早く温暖化が進んでいるため、さらなる努力が求められている。技術的開発やその普及など、様々な取組を行っているが、途上国と先進国の責任の所在等、問題が生じている。
- ・ それに対し、江戸川区のこのような取組もしくは地域社会の取組は、話がまとまりやすく、一部世界をリードするようなこともできている。
- ・ 江戸川区は来年度の新たな取組など非常に意欲的なものに取り組んでいる。地球全体の大きな流れを見据えながら、区として地域社会として何ができるか、というところをきちんとやっていきたい。「カーボン・マイナス」が非常に意欲的な発想で、これを実現するためには今日ご出席の皆様のお力が必要である。
- ・ 様々な形で江戸川区の取組が、洪水被害のあったパキスタンやバングラデシュなどの支援につながれば良い。視野を広げれば、本日の出席者が、現地を訪問して現状を確認し、江戸川区がやっている環境教育等を少しでも伝えることができるかもしれない。
- ・ 日本一のエコタウンという表現は、昔から言われているが、現在、先頭グループを走っていると考えている。役所が作った基本的な政策にアイデアを差し込むのが、この会議の役割であるため、闊達なご意見をお願いしたい。

2 新本部員紹介及び資料確認

3 事務局説明

- (1) みんなで「いまの^{いのち}生命」と「みらいの地球」を守る計画（江戸川区気候変動適応計画）の策定について（資料2）

【推進本部事務局】

- ・ 計画は昨年12月に策定し、公表した。気候変動への対策は、地球温暖化による異常気象、またそれによる影響に備える「適応策」と、地球温暖化の要因となる温室効果ガスの排出を抑える「緩和策」の二つがある。「いまの生命を守る」ことが適応策、「みらいの地球を守る」ことが緩和策を意味して

いる。

- ・ 本編は資料編を含め全体で 183 ページあり、これを簡潔にまとめたものがこの概要版である。概要版は、小学校高学年の子どもたちにも分かるようにというコンセプトで作成している。

○気候変動ってなあに？（2、3ページ）

- ・ 「気候変動ってなあに？」と題して、気候変動や地球温暖化について、気候変動の様々な影響、本計画で実施することを説明している。
- ・ 石油、石炭を燃やすと大気中の温室効果ガスが増え、地球温暖化が進んでいく。区内の平均気温も、1977年から2020年の約40年間で約1.6度上昇しているという現状がある。
- ・ 地球温暖化の進行により、異常気象が引き起こされ、海面上昇、猛暑、豪雨等が発生する。自然災害、健康への影響、インフラ、行事、自然環境、水資源、水環境などにも影響してきている。
- ・ このような気候変動の影響に対し、いまの生命を守る適応策と、みらいの地球を守る緩和策の二つの対策に取り組んでいく。
- ・ 適応策は、国の気候変動について7つの影響があり、SDGsの三つの柱である社会・環境・経済に分類してまとめている。
- ・ 緩和策は、第2次エコタウンエドがわ推進計画の目標を改定し、包含した。気候変動の対策を区民、事業者、区が一体となって今まで以上に取り組んでいく。温室効果ガス排出量の削減目標として、2030年度までに50%削減、2050年度までにはカーボン・マイナスを目指す。

○「いまの生命」を守る～気候変動への適応策～（4、5ページ）

- ・ 江戸川区は荒川・江戸川・東京湾に囲まれ、陸域の約7割がゼロメートル地帯であり、台風や豪雨により、水害が起こる可能性が高い。そのため、行政も区民も自分事として考え、備えることが大切となる。
- ・ 気候変動の影響への対応として、都市計画道路の整備推進、災害時要配慮者対策の推進、災害に強いまちづくり、区のホームページや広報等や地域イベントにおける情報発信、区民への気候変動に関する啓発などを、重点施策としている。
- ・ 社会・環境・経済の三本柱で、区が取組と、区民、事業者の皆さんの取組を紹介。例えば水害対策について、区はスーパー堤防事業等の防災と環境へ配慮したまちづくり、暑さ対策、緑化推進などを実施している。区民事業者の皆様には、ハザードマップを読むこと、避難場所の確認、災害に向けた食料品の備蓄などの対策を紹介している。

○「みらいの地球」を守る～気候変動への緩和策～（6、7ページ）

- ・ 温室効果ガス排出量の目標は、第2次エコタウンエドがわ推進計画では、2030年度40%の削減だったが、これを改定し、2030年度までに2013年度比で50%削減、そして2050年度までに、森林による吸収量が多い「カーボン・マイナス」を目指す。2月3日には、「カーボン・マイナス都市宣言」を行い、脱炭素社会実現に向けての取組を加速する。
- ・ 2018年度に江戸川区から排出された温室効果ガスは、およそ217万7千トン、そのうち約9割の202万1千トンが二酸化炭素である。
- ・ 部門別の割合は、家庭部門が約4割、業務部門と運輸部門はそれぞれ約2割で、全体の約8割を家庭・業務・運輸で占めている。排出量50%削減のためには、この3つの部門での削減が重要で、区民、事業者、区が一体となり、オール江戸川で取り組むことが必要。

- ・ この計画の中で、家庭部門は1日1.3キロダイエット、業務部門は年間46キロカット、運輸部門は1日1.9キロ減と、部門ごとに二酸化炭素の排出削減の目標を定め、皆さんに取り組んでいただきたいと考えている。

○「みらいの地球」を守る～気候変動への緩和策～（8、9ページ）／家庭部門

- ・ 家庭部門は区民の取組であるが、「1日1.3キロダイエット」とし、区民ひとりひとりが二酸化炭素の排出量を1日1.3キロ減らすというものである。
- ・ 家庭部門の二酸化炭素の排出量は81万3千トン、これを48万5千トンにすることが目安。例えば、リビングでは冷暖房の温度設定の見直し、テレビ・照明の電源等を使用していない場合はオフにする、キッチンでは冷蔵庫の整理整頓や温度調整、バストイレでは電気便座の蓋を閉めるなど、省エネ行動を紹介させていただいている。

○「みらいの地球」を守る～気候変動への緩和策～（10、11ページ）／業務部門

- ・ 業務部門は事業者の皆さんの取組として、年間1㎡当たり46キロカット（ヨンロクカット）を目指している。事業所の規模によって二酸化炭素の排出量が異なり、削減量を一律にすることが難しいため、1㎡あたりの削減目安としている。
- ・ 業務部門の二酸化炭素排出量の削減目安は、45万7千トンを27万4千トンに削減で設定。
- ・ 業務部門は、事業所、学校、その他サービス業で二酸化炭素排出量の約8割を占めている。
- ・ 電力消費比率は、空調・照明・OA機器で約85%となっており、従業員の取組も重要で、電気やパソコンを使用する際の省エネ行動、クールビズ・ウォームビズによる空調の適正使用などがあげられる。事業者の取組は、機器設備の更新や建物の省エネなどがあり、従業員・事業者ともに対策をしていくことが重要。

○「みらいの地球」を守る～気候変動への緩和策～（12、13ページ）／運輸部門

- ・ 運輸部門は区民・事業者の取組であり、1日1.9キロ減、自動車での移動を減らすというもので、徒歩や自転車、公共交通機関での移動をお願いしている。
- ・ 運輸部門における二酸化炭素排出量の削減目安は、43万3千トンから28万トンにということで設定している。
- ・ 二酸化炭素の排出量を減らすため、地球にやさしい「エコムーブ」をお願いしたい。車を使わない、エコドライブ、次世代自動車に買い替えるなどである。

○えどがわ気候変動ミーティング（区民会議）の開催（14、15ページ）

- ・ 計画策定の際に、区民の声を反映する目的でえどがわ気候変動ミーティング（区民会議）を開催した。無作為抽出で選ばれた区民約1,500名に案内をお送りし、10代から60代の男女14名の方にご参加いただいた。昨年の8月から11月に、月1回、合計4回実施し、緩和策や適応策について、グループワークを実施した。
- ・ 参加者に、緩和策として家庭・運輸・業務、適応策として水害・熱中症について重要だと思う項目をあげていただき、参加者投票のベスト5を決定。概要版にはベスト3を掲載したほか、各グループの提案も掲載した。
- ・ 緩和策は、家庭については、こまめに電気を消す、節電ポイントの導入、業務については、若者版えどがわ気候変動ミーティングの開催、運輸については、公共交通機関を使う、自動車を導入し

ないといった意見が出されている。

- ・ 適応策の水害対策については、地域の詳細にアクセスする仕組みを作る、公園の地下に雨水貯留槽等を設置するなど熱中症対策については、風の通路を確保する、冷暖房を使用することなどがあげられている。
- ・ この計画を皆さんにも知っていただき、自分事として取り組んでいただきたい。住みよい環境を、未来につないでいくため、脱炭素社会の実現に向けて、今後、取り組んで参りたい。

(2) 来年度の新たな取組について (資料3)

【推進本部事務局】

○緩和策についての取組

- ・ 温室効果ガスの排出を減らす緩和策の新たな取組として、気候変動に備え、脱炭素を目指す補助金を来年度から開始し、区民の皆さんの取組を支援していきたい。太陽光発電設備には、既存の戸建住宅を対象に、1kW当たり7万5千円、上限30万円の補助を考えている。定置型の蓄電池には、個人の方を対象に、購入費の4分の1、上限20万円を補助する。電気自動車等の次世代自動車は、個人所有の電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド(PHV)、燃料電池自動車(FCV)に対して一律10万円を補助する。ポータブル蓄電池は、先ほどの区民会議で意見が出てきたものであるが、可搬式太陽光パネルで蓄電可能なものについて一律1万円の補助を考えている。
- ・ 脱炭素に向けてどのような取組をすればよいかわからない企業を対象に脱炭素セミナーを開催し、区内企業の脱炭素経営の支援を行って参りたい。
- ・ 既存の区有施設について、太陽光発電設備導入のためのポテンシャル調査を行い、太陽光発電設備を設置できる施設については、順次導入していきたい。

○適応策についての取組

- ・ 保育園、小中学校等の教育施設、子ども未来館や教育プラザ、高齢者施設等の福祉施設などで気象防災アドバイザーによる出前講座を行い、区民の皆さんへの周知啓発を促進していきたい。
- ・ 区のホームページや広報などで、気候変動だよりなどを配信していきたい。江戸川区において特に重要な水害対策、熱中症対策を中心に、様々な気候変動の影響とそのリスクに対する適応策の情報発信をしていきたい。また、地域まつり等にも積極的に参加し、区民の皆さんに気候変動についての説明、周知等を行っていきたい。

4 意見交換

【顧問】

- ・ 説明について、いろいろご意見をいただきたい。小さいことでも良い。家庭からの排出量が40%であるから、例えば家庭で10%減らしたとすれば、世界で10%であれば大変な額になる。
- ・ 概要版をホームページに載せる際に、環境省などの関連のリンクを貼ることで、より深く調べることができる。
- ・ エコポイントのような、消費者から見たやる気の出る制度の提案など、ご意見を伺いたい。

【産業界代表】

- ・ 補助金の対象は区民となっているが、小さな町工場はどうか。

【事務局】

- ・ 来年度の補助金については、個人の住宅の太陽光パネルで事業者向けではないが、国や東京都では事業者に向けての補助金がある。周知するため、積極的に使っていただきたい。

【顧問】

- ・ 個人向けの補助金で、区と、国や東京都の補助金を併用できることが分かるような記載があると良い。
- ・ 工場や商店街のアーケードなどで太陽光パネルの導入を検討する事業者に向けて、ホームページに国や東京都の補助金のリンクを貼るなどして、積極的に使っていただけると良い。

【産業界代表】

- ・ 3月20日に江戸川区とカーボン・マイナスに向けた連携協定を交わした。事業者については、まだまだ何をしたいかわからないような状況であり、既存の施設を置き換えるとどうしてもお金がかかってくる。補助金などを活用できる環境を整えている区に感謝し、一緒に今後でも取り組んでいければと思う。
- ・ 概要版に、区民や事業者の取り組む内容について具体的なものを記載しているが、例えば、トイレのふたを閉めたら、どれぐらいカットできるのかというのが見える化できると、区民の方もますます取り組みやすくなるのではないかと思う。閉じることによって、何キロ、ダイエットできたということが分かると思う。
- ・ 自己申告にはなるが、アプリなどで今日はこんな取組をしたというのを自己チェックできるような形にして、顧問のご提案のように、エコポイントのようなものを付与すると少しインセンティブになるのではと感じた。

【顧問】

- ・ 各家庭でその取組が合っているかを判断できるという意味でも、数値化があるとわかりやすい。
- ・ 役所も事業所も、IT化や働き方改革を進めることによって、人件費の削減や、通勤回数削減によるCO₂の削減などエネルギーを削減できるのではないか。人件費減らせればポイントに係る経費も捻出できる。
- ・ 出かける際に、冷蔵庫などを除く家電を一発で消せるようなスイッチがあれば、消し忘れも防げるから良いのではないか。
- ・ 昔、プラスチックのごみを全部燃やそうという流れになったことがあったが、本日、参加されている方が委員会で分別・再利用の提案をした。男性からは面倒だという意見も多かったが、やってみようということになった。試したところ、90%の家庭の協力があつた。当時の区長が自信を得て、区長会で「江戸川区が分別します」と宣言したところ、同様の考えの区も6・7区あつた。そうしたこともあるため、無理だと思うようなことも、ご提案いただきたい。先ほどのような話が加わることによって、この計画が活きてくる。

【地域選出者】

- ・ 主婦としてという立場でいつも意見を言わせていただいている。概要版8、9ページのところは、まさに主婦の欄。今の電気代の高騰と同時に、みんな心がけてはいるが、家庭の中で心がけているのはわが身ひとりと感じることがある。世の中の男性や子どもはなかなか協力的でない。そこを指導していくことも大事だと思う。
- ・ 二、三日前の新聞でたまにはモップでという記事を見て、箒を引っ張り出して試してみたが、時間との競争もあり、なかなか完全に变えることは難しいかもしれない。しかし、主婦がその気になって家庭の中を誘導すれば何とかなるかと思う。

【環境をよくする地区協議会会長】

- ・ 8、9ページについて、個別に数値があるともっと具体的で良いと思う。やるのに、どのくらいの費用がかかるか。どのくらいエネルギーを削減できるのか。目安があるとよりわかりやすい。
- ・ 先ほどと同じ意見だが、アプリで概算でもいいから換算表みたいなものがあるとやる気を起こさせる。

【事務局】

- ・ 計画全文の中に数値的なものは細かく出ている。
- ・ 現在、気候変動関係の、この計画に出てくる数値を入力できるようなSDGsのアプリを作成中であり、今年秋口の使用開始を目指している。

【顧問】

- ・ エネルギーの削減と健康を結び付けた取組はどうか。例えば、車移動ではなく徒歩にした場合や、掃除機ではなく箒を使用した場合のように、エネルギーが削減され健康も増進されるといったような取組も興味を持ってもらえるかもしれない。

【環境をよくする地区協議会会長】

- ・ 窓ガラスの遮熱シートはどうか。今年寒かったから、遮熱シートの代わりに段ボールを貼ったら全然違った。ここに書いていないが、そういうものもあったらいいと思う。

【顧問】

- ・ エコガラスの簡単版のようなことができるから、皆さんのお知恵を借りて充実させていくと良い。
- ・ アプリをどんどん進めると良い。評判になったら面白い。

【環境をよくする地区協議会会長】

- ・ 数値化は非常に大事なことだと思う。数値化したものをどういうふうに周知するのが非常に難しいところである。
- ・ アプリもそうだが、広報えどがわにPRするページを設けて、70万区民の中で広報えどがわを見る方の数が増えることによって、大きな効果が得られると思う。
- ・ 日本のペットボトルは、無色透明が多い。それは、単一の元素からできているからで、半永久的に再利用できるということであり、そのためにペットボトルを洗うということ全然知らなかった。周知することで理解する人がいる。この繰り返しによって削減ができると思う。いかに周知させて

いくかということを考えるべきなのかなという気がする。

【顧問】

- ・ 私の長い経験で、どういうわけか女性はやるが、男性はやらない。環境に関しては本当に男性の理解がちょっと足りない。女性はおそらく非常に興味も高く、知識も豊富。
- ・ 男性は、頭の中に会社のことや色々なことがあって、なかなか余裕がないのかもしれないが、みんなが分かるような何かを。これはエコセンターなどのお仕事かもしれない。

【認定 NPO 法人えどがわエコセンター】

- ・ 概要版は小学生にも分かるような内容で、非常にわかりやすく書いてあるが、本編には詳しい内容が出るのかなと思っている。また、区民ミーティングで区民ニーズを吸い上げ、補助金制度を新たに立ち上げたというのは、江戸川区においては非常に大きいことだと思う。
- ・ 今エネルギー危機ということもあり、我々が一生懸命節電することも重要だが、電気の元が環境に良いもので発電されるとより良いかと思う。その辺の取組や方向性の認識を伺えたらと思う。
- ・ エコセンターとしては、来年度、中期計画を設け、具体的にその取組を周知できるような形で大きく PR をしていきたいと思っている。
- ・ 企業における省エネで、電力についてはコーポレート P P A という企業における電気の長期契約がある。これは再生可能エネルギーを基に行われるもので、こういう制度も実は多々ある。こういったものの PR を、エコセンターとしてはどんどんしていきたいと思っている。

【顧問】

- ・ エコセンターもともとね、市民団体でも集まって、今言ったようなことを広めようというのが一つの趣旨でやっており、船堀のタワーホール船堀にある。
- ・ 熱心な方々からその先がね、なかなか難しいところであり、知っている人と知らない人のギャップをなんとか埋めなきゃいけない。

【産業界代表】

- ・ こちらのメンバーに 1 業種だけ入っているのは、我々がやはりかなり排気ガスを出しているということなのかなと思い、ちょっと肩身の狭い思いをしている。
- ・ 取り組んでいることを 1 点と、今後変えていっていただきたいことを 1 点、2 点、お話をさせていただきたい。
- ・ 東京都トラック協会は、今約 3,000 社の企業が加盟しており、エコを考えるとということで、グリーンエコプロジェクトというものを立ち上げている。これは 17 年前からやっており、運転的に言うとゆっくり発進ゆっくり停止。あとは早めのシフトアップ早めのシフトダウンということ、ドライバーに啓蒙させながら走行表を作らせて、毎月の目標をクリアできたらどうなるんだろう、ということで取り組んでいる。これは、国連の環境大賞にも選ばれた事業である。これによって、この 17 年間で約 17% の燃費改善ができた。これは 10 万リットル以上の削減で、杉の木にすると、1,800 万本以上の植樹ができたという結果になる。
- ・ このゆっくり発進ゆっくり停止を行うことによって、事故率も 17 年間で 28% 削減できた。
- ・ CO₂ を出すのは熱効率問題で、ハイオクなどの良い車ほど燃費効率が悪い。ディーゼルはすごく熱効率が良くて、その点、環境にやさしいエンジンと言われている。スイスなどは、電気自動車

とディーゼル車しか走れない環境になっている。トラック協会も、トラックを使う営業所も、しっかりと環境に取り組んでいるのでご理解いただきたい。

- ・ トラックの後ろにグリーンエコプロジェクト参加者というシールが貼ってあり、この車の後ろにつくとちょっと遅いなと思うが、これはドライバーひとりひとりが、環境に対してすごく注意をして、ゆっくり発進してゆっくり止まる、早めのブレーキングというのを進めているので、ご理解いただきたい。
- ・ トラック業界ほど電気自動車EV化を進めてもらいたい。一部水素自動車はあるが、電気自動車はほぼない。よく街中を走っている4トン車と言われるものは、箱やゲートが付くと積載量が2トンくらいになり、小さな2トン車よりも積めない。電池が小さくならなければ、トラックに対応できない。
- ・ 法律を変えるなどして、4トン車で4トン積めて、電池がもっと小さくなって、効率の良い車両がつかれるように取り組んでいただきたい。

【顧問】

- ・ メーカーや国に言ってもらわないと困るが、今のトラック業界からの切実な声。
- ・ 量を減らすよりは、業界として何%減らしたっていうパーセンテージの努力を競争した方がいいと思う。トラックは必要なものであり、いらぬわけではない。
- ・ 環境に配慮しゆっくり走っているという部分は、普通のドライバーより進んでいる。そういうのは誇りを持って結構だと思う。

【地域選出者】

- ・ コロナ禍で、子どもたちが10分外に出ただけでも家に帰ってくると必ず手を洗うほど、子どもたちは徹底している。おやつをあげた時なども、3歳の子でも袋を見て、マークがついていればこれはプラだなど、分別をしている。だから、徹底していくには幼稚園、保育園、小学校低学年の人たちに、もうちょっと理解してもらうのが一番早い手なのではというのが一つ。
- ・ もう一つが、公園の下に雨水を溜めて、それを火事の時に使うという話がある。うちの町会にも30年以上前にできた公園の下にある。ところがそれをどうやって使うか、その鍵はどうやって開けるかということがわからず、区や消防署に何年も連絡し続け、ようやく1年ほど前に消防署にありましたとの連絡があった。蓋を開けて見てもらったところ、土や葉っぱがいっぱいで、これは利用できませんねとの返事だけで帰ってしまった。
- ・ これまでどのくらい火事の時に使用されたかわからないが、蓋をして葉っぱなどが入らないようにして、公園の掃除に使用したり、水害の際に家の中に入った泥を掃除したりするのに使うなど、もう少し見直して既存のものを使用したら良いのではと思う。

【顧問】

- ・ おっしゃる通り、無駄に放置されているものもあると思うので、ぜひ区の方も皆さんも周りに気をつけていただければ。
- ・ 子どもは案外早く大人になるし、子どもは親に教えてくれる。お母さんお父さんそんなことやっちゃ駄目だよって、学校で教わったよって。子どもに覚えてもらったら大変効果はあると思う。

【アドバイザー（エネルギー事業者：東京電力）】

- ・ 今年の電力需給について、ご報告したい。昨年の3月に福島地震で発電所が何ヶ所か止まったという後に、3月で雪が降るような寒い日があり、初めて電力需給逼迫警報というものが出された。
- ・ 電力の予備率は3%なければいけないところで、5%を切ると逼迫注意報が出る。1月は4.1%という予報があり、私もヒヤヒヤしながら過ごして参りましたが、5%を切ることもなく冬を越えることができた。
- ・ 我々も震災後なかなかCMを出したりするような立場ではなかったが、今年の冬は皆様に節電にご協力いただかないと厳しいだろうということで、国からもお許しをいただき、キャラクターが再登場するCMを再開した。今年の冬は皆様にも節電にご協力いただいたが、私もずっと湯たんぽを持って、日々過ごしていた。何事もなく冬を越えることができたのも、皆様の節電ご協力のおかげだと思っている。

【アドバイザー（エネルギー事業者：東京ガス）】

- ・ エネルギー事業者として、エネルギーの安定供給を確保するというのを第一使命とし、弊社グループでは2050年にガスのカーボンニュートラル化ということで今、取り組んでいる。
- ・ 今、都市ガスについては天然ガスを使用してCO₂を排出しているが、2050年には、その排出した二酸化炭素と水素を混ぜて合成メタン（eメタン）を作り、それをまた都市ガスとして使っていただくという、二酸化炭素のリサイクル化に向けた実証実験をやっている。
- ・ リサイクル化が始まるまでは、従来の給湯器と比べCO₂を年間約1.4トン削減する、電気とお湯を作る家庭用燃料電池エネファームの普及に取り組んでいく。
- ・ 先ほど省エネのアプリという話題が出ていたが、弊社グループでも、例えばシャワーヘッドを新しいエコモードに変えたらどれだけになるかというようなアプリを今作っている。
- ・ いずれにしてもこれからの子どもの未来、将来を担う子どもたちにしっかりと環境教育をやっていくというのが必要になるかと思う。今、学校での出前授業や、子ども未来館やエコセンターの方々含めて、いろいろと協力、連携させていただきながら取り組んでいる。

【顧問】

- ・ 私の方から最後に、皆さんのお話を聞いて数値化という話が出た。私は、国際的にちょっと考えてみたらどうかと思う。江戸川区が人口70万でこれだけ減らしたから、世界の先進国だけでも良いから減らすことができれば、大きな力になる。
- ・ 例えばがんの特効薬ができて、20%に効果がある。また新しい薬が出てプラス1%に効果があるとなったら、どれだけの人が救われるのか。世界のがん患者のうちの1%は大きい。同様に、私たちがこんなことやってもしょうがないだろうと思わないで、江戸川区でCO₂を5%減らしましたら、仮によその区でも、全世界でも仮にみんなが5%減らしてくれたら、これは非常に大きいと思う。
- ・ 仮でも良いので、数値を出すと、江戸川区民がやるのが、大きな影響力を与える可能性がある。江戸川区の皆さんがいろいろ努力した結果、何%か減ったから、世界の市民でやってくれたら、非常に減ることになる。私がやることは小さいことだけど、結果的に大きい可能性があるんだからやろうというインセンティブになると思う。
- ・ カーボン・マイナスについては、今のところ、これを打ち出してる都市が少ない。日本だけでなく海外も含めて、2050年までにカーボン・マイナスをやろうという都市が集まって、カーボン・

マイナスアライアンスのようなものを作り、江戸川区が議長都市になって、国際シンポジウムなどをやったら良いと思う。せっかく江戸川区が非常に意欲的なものを出したので、これを国内及び国際的に広げていったらどうか。そのイニシアティブを江戸川区でってはどうか。少なくとも国内で、連合体を作ってみるっていうのも面白い試みである。

5 閉 会

【事務局】

- ・ 今日いただいた貴重なご意見は、区のこれからの取組に生かして参りたい。
- ・ 最後になるが、気候変動対策は、適応策と緩和策の両輪で取り組んでいかなければならないと思っている。環境部は、江戸川区のスローガンである「ともに生きる、江戸川区」を目指し、これからも区民の皆さんと一緒に取り組んで参りたい。

来年度の新たな取組について

今後の取組について

緩和策

・・・温室効果ガスの排出をへらす

1 「気候変動に備え、脱炭素を目指す補助金」 Start !

区民への支援

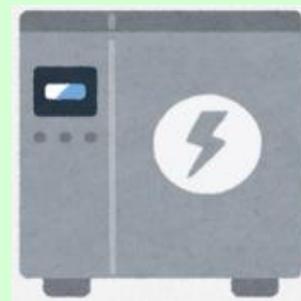
①太陽光発電設備



【対象】既存の個人戸建
(FITは対象外)

【補助額】7.5万円/1kW
※上限30万円

②定置型蓄電池



【対象】個人

【補助額】購入費の1/4
※上限20万円

③電気自動車等



【対象】個人所有の
EV・PHV・FCV

【補助額】一律10万円

④ポータブル蓄電池



【対象】可搬式太陽光パネルで
蓄電可能なもの
(400Wh以上に限る)

【補助額】一律1万円

区民のみなさんの脱炭素に向けた取組を支援！！

今後の取組について

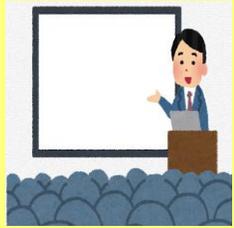
緩和策

・・・温室効果ガスの排出をへらす

2 えどがわ脱炭素サイクル

事業者への支援

脱炭素セミナー 脱炭素経営支援



啓発



現状把握

→改善計画→実施



効果を実感



チャレンジが広がる

3 公共施設への太陽光発電設備導入のためのポテンシャル調査

公共施設



調査後、
設計・工事
順次導入

既存の区有施設について
耐荷重などを調査

今後の取組について

適応策

・ ・ ・ 気候変動の影響にそなえる

1 気象防災アドバイザーによる「出前講座」の実施



教育施設

(保育園・小中学校など) (子ども未来館、共育プラザなど)



児童施設



福祉施設

(高齢者施設、障害者施設など)

い



町会の集まりなど

2 気候変動だより等の配信

区HPで気候変動だよりを配信



気候変動だより



水害対策



熱中症対策

区民のみなさんに気候変動を知ってもらおう！